

アルビレオ ウィンドアンサンブル

第10回 演奏会

保科洋の世界 X



指揮
保科洋
Cond. Hiroshi Hoshina

古 祀

保科 洋

An ancient festival for Wind Orchestra

愁 映

保科 洋

吹奏楽のための
SHUUEI-Meditation for Symphonic Band

オペラ「はだしのゲン」セレクション より
Selections from "HADASHI-NO-GEN"

保科 洋

「まだ死にたくない!」他

ソプラノ

保科 康子

ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 Op.11

R. シュトラウス

Concert No.1 in E-flat Major Op.11 for Horn and Wind Orchestra

Arr. 保科 洋

ホルン

比戸 杏李

パリのアメリカ人

G. ガーシュイン

An American in Paris

Arr. 保科 洋



ソプラノ 保科 康子
Soprano Yasuko Hoshina



ホルン 比戸 杏李
Horn Anri Hido

2025

2/2

(日) 14:00 開演 (13:30 開場)

三田市総合文化センター
郷の音ホール大ホール

〒669-1531 兵庫県三田市天神 1-3-1

郷の音ホールチケットセンター TEL : 079-559-8101

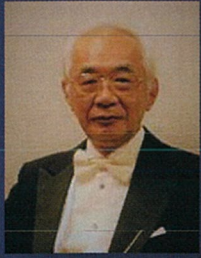
- 発熱等、体調不良の症状がある方は、ご来場をお控えください。
- 会場内では「咳エチケット」、適切な手指消毒にご協力ください。

■ 主催 / アルビレオ ウィンドアンサンブル ■ 後援 / 三田市教育委員会・三田市吹奏楽連盟・兵庫県吹奏楽連盟



ALBIREO WIND ENSEMBLE 10th CONCERT

指揮 保科 洋



1960年、東京芸術大学作曲科卒業。卒業作品にて第29回毎日音楽コンクール作曲部門(管弦楽の部)第1位を受賞。1963年、文部省芸術祭奨励賞受賞。東京音楽大学、愛知県立芸術大学を経て、1982年、国立兵庫教育大学着任。2001年、同大学を退官。同大学名誉教授となる。

作品は管弦楽曲、オペラ、吹奏楽曲、室内楽曲、合唱曲、ミュージカルなど幅広く、特に吹奏楽では日本を代表する作曲家で、1991年には日本吹奏楽学会アカデミー賞(作曲者賞)を現存する作曲家では最初に受賞。

作品のいくつかはアメリカでも課題曲に登録されるなど世界各国で演奏され海外でも評価は高い。2008年には、ホルン協奏曲「巫女の舞」がイタリアのポルチア国際ホルンコンクール本選課題曲に選出。邦人作曲家の作品が管楽器の国際コンクールの本選課題曲に選ばれたのはこれが初めて。

また、2010年にヤマハ吹奏楽団の委嘱により初演された「復興」は、その後、吹奏楽コンクールでも多数の団体が演奏し、非常に人気の高い作品となっている。

全日本吹奏楽コンクール課題曲として、カンティレーナ(1976年度)、風紋(1987年度)、アルビレオ(1998年度)、インテルメッツォ(2017年度)が委嘱されている。

指揮活動も「フィルハーモニックウインズ浜松」や「シエナ・ウインドオーケストラ」をはじめ幅広く行っているが、特にアマチュアを対象とした指導法はそのユニークな演奏解釈理論とともに定評があり、岡山大学交響楽団の常任指揮者を50年以上の長きに亘って続け、日本有数の大学オーケストラに育て上げるかたわら、客演指揮者としても全国各地のオーケストラや吹奏楽団で活躍している。2017年からは、保科洋指揮法クリニックを兵庫県加東市で主催し、全国のスクールバンドや市民音楽団体指揮者にアマチュア演奏団体を指揮するための指揮法の指導を行っている。

このような長年にわたる教育・指導活動が評価され、平成27(2015)年度秋の叙勲において「瑞宝中綬章」が授与され、平成28(2016)年度には兵庫県から「文化功労章」が授与された。

2017年4月、脳出血により一時、左半身麻痺になるが、努力と情熱で奇跡的な回復をみせている。

2020年には「交響曲第3番」を作曲。最新作は「古風な小組曲」(2022年)。

兵庫教育大学名誉教授、浜松アクト音楽院吹奏楽部音楽監督、フィルハーモニックウインズ浜松音楽監督。

アルビレオ ウィンドアンサンブル

『アルビレオ』とは、白鳥座の連星(アルビレオ)にヒントを得て作曲された保科洋作品「アルビレオ」に由来しています。吹奏楽演奏において、保科洋氏の著書「エネルギー思考に基づく演奏解釈」の実現をめざし、2013年4月に結成。メンバーは、一般アマチュア演奏家、プロ演奏者、小・中・高等学校・大学の教職員など幅広いメンバーで構成されています。

2013年10月、デビューコンサートとして『加東2013音楽の日』にゲスト出演し好評を博しました。2014年からは、定期的に三田市や阪神間などで演奏会を行っています。2016年、2017年、2018年、2022年には加東市の中学校吹奏楽部の皆さんとの交流演奏会として「アルビレオ ウィンドアンサンブル演奏会 in 東条」を開催しました。

毎年、東条文化会館コスミックホールで開催される「保科洋指揮法クリニック」のモデルバンドを務めています。



保科 康子 (ほしな やすこ) / ソプラノ

東京音楽大学声楽科卒業。専業主婦を務めるかたわら、子どもが巣立ったのをきっかけに地元の合唱団に参加し、発声法などを指導しながら自身も演奏活動を行っている。

兵庫県小野市が国際交流を目的として行っている「オペレッタの夕べ」では、「カルメン」のミカエラ役・「こうもり」のオルロフスキー役・「メリーウイドウ」ハンナ役・「フィガロの結婚」のマルチェリーナ役などを演じるかたわら、地元の慈善演奏会などで演奏活動を続けている。

2007年および2016年の岡山大学サマーコンサートで「ペールギュント」の「ソルベイグの歌」を歌い、2010年の岡山大学OB交響楽団記念演奏会ではマーラーの交響曲2番「復活」のソプラノを、2015年には同交響楽団のマーラーの交響曲3番のアルト独唱を担当した。

声楽を故高柳二葉、故保坂博光の各氏に師事。



比戸 杏李 (ひど あんり) / ホルン

兵庫県出身。9歳よりテナーホーンを始める。

大阪音楽大学を優秀賞で卒業。同大学卒業演奏会、第36回ヤマハ管楽器新人演奏会に出演。日本演奏連盟主催の新進演奏家育成プロジェクト第78回オーケストラ・シリーズで、R.シュトラウスホルン協奏曲第1番を指揮 角田 鋼亮氏、日本センチュリー交響楽団とザ・シンフォニーホールにて共演。葉加瀬太郎オーケストラコンサートツアー2022 西日本メンバーとして出演。

2021年4月~2024年3月まで、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 コアメンバー。

これまでに大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、九州交響楽団、テレマン室内オーケストラ、日本センチュリー交響楽団に客演。

ホルンを池田 重一氏に師事。室内楽を池田 重一、持丸 秀一郎の各氏に師事。

ラドヴァン・ヴラトコヴィチ、ラデク・パボラークのマスタークラスを受講。

オリヴィエ・ダルベレイ、ジャック・デルブランク、デイビット・クーパーのプライベートレッスン、ドイツ・ハンブルクにてアブ・コスターのレッスンを受講。